



データベースのページ

次の各トピックでは、トラップ、イベント、およびアラームを Cisco ANA データベースから自動的にページする方法について説明します。自動ページの設定に関する作業は次のとおりです。

1. トラップ、イベント、およびアラームをデータベースに保持する期間の設定。
2. 指定期間を過ぎたイベントが定期的に自動ページされるよう、cron テーブルへのエントリの追加。

次のトピックでは、システムの安定を保つための完全性サービス テストのスケジューリング方法について説明します。

- 「レジストリ エディタを使用したイベント ページ値の設定」(P.12-1)
- 「自動イベント ページのスケジューリング」(P.12-3)
- 「Cisco ANA 完全性サービス」(P.12-3)

レジストリ エディタを使用したイベント ページ値の設定

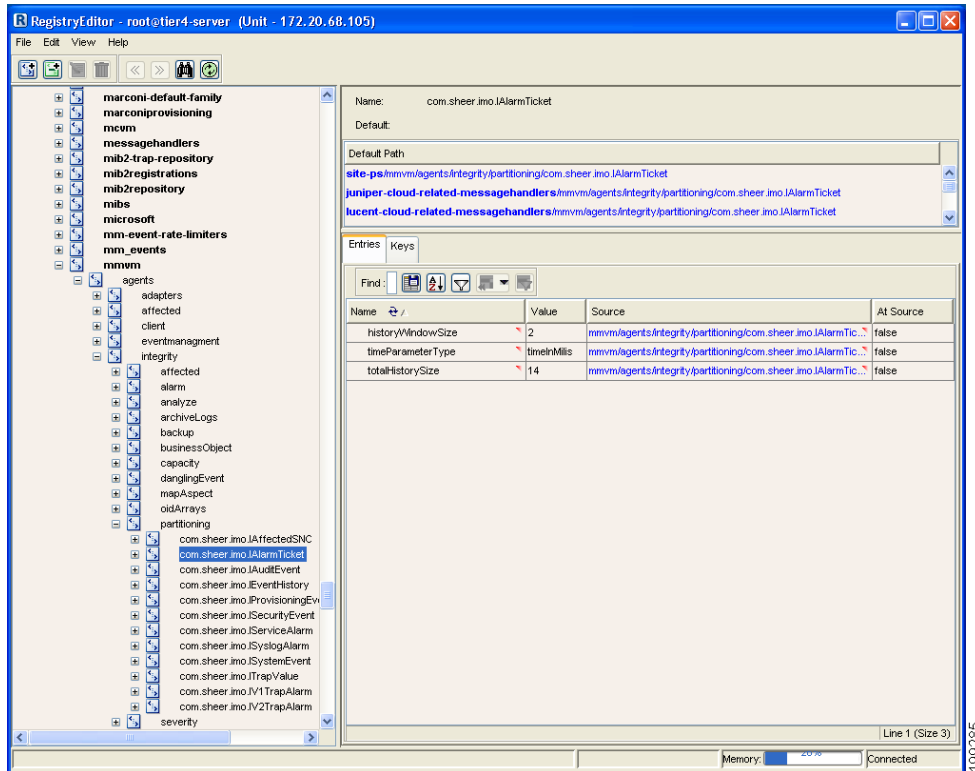
データベースのイベント、トラップ、およびアラームが保持される期間はレジストリで指定されます。レジストリ内の該当するエントリは、`site/mmvm/agents/integrity/partitioning` のサイト群にあり、表 12-1 に示しています。デフォルトの保持期間は、各エントリの `totalHistorySize` キーに示されているように 14 日です。

表 12-1 Cisco ANA Registry のイベント エントリ

エントリ	説明
com.sheer.imo.IAffectedSNC	サブネットワーク接続
com.sheer.imo.IAlarmTicket	チケット
com.sheer.imo.IAuditEvent	監査
com.sheer.imo.IEventHistory	イベント履歴
com.sheer.imo.IProvisioningEvent	プロビジョニング
com.sheer.imo.ISecurityEvent	セキュリティ
com.sheer.imo.IServiceAlarm	サービス アラーム
com.sheer.imo.ISyslogAlarm	Syslog アラーム
com.sheer.imo.ISystemEvent	システム アラーム
com.sheer.imo.ITrapValue	トラップ
com.sheer.imo.IV1TrapAlarm	V1 トラップ アラーム
com.sheer.imo.IV2TrapAlarm	V2 トラップ アラーム

図 12-1 は、該当するエントリが表示されたレジストリ エディタの例です。

図 12-1 レジストリ エディタとイベント エントリ



これらのイベント、トラップ、およびアラームの保持期間を変更するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 レジストリ エディタを使用して、Cisco ANA ゲートウェイにログインします。
- ステップ 2 [File] > [Connect to Golden Source] を選択します。
- ステップ 3 [Golden Source] ダイアログボックスで、ドロップダウン リストから [Template] を選択し、[OK] をクリックします。
- ステップ 4 レジストリがロードされたら、[All Hives] 下で、site/mmvm/agents/integrity/partitioning にナビゲートします。
- ステップ 5 表 12-1 の各エントリについて、次の手順を実行します。
 - a. レジストリ ツリーのエントリを選択します。
 - b. コンテンツ領域テーブルで、[totalHistorySize] を右クリックし、[Override] を選択します。
[Create Entry] ダイアログボックスが表示されます。
 - c. [Value] フィールドに、Cisco ANA がイベントを保持する日数を入力し、[OK] をクリックします。
コンテンツ領域テーブルのエントリは新しい値で更新されます。
 - d. 表 12-1 の各エントリについて、totalHistorySize の値の設定が完了するまで、ステップ 5a からステップ 5c を繰り返します。

- ステップ 6** レジストリ エディタを終了します。新しい値が即座に有効になり、cron ジョブが次回有効になったときに使用されます。cron ジョブのスケジューリングについては、「自動イベント ページのスケジューリング」(P.12-3) を参照してください。

自動イベント ページのスケジューリング

イベントを定期的に自動的にページするには、cron ジョブをスケジューリングします。

- ステップ 1** ユーザ sheer として Cisco ANA ゲートウェイにログインします。

- ステップ 2** 次のコマンドを入力して、cron テーブルを編集します。

```
crontab -e
```

- ステップ 3** 次の行を追加して、データベース イベントを 1 日に 2 回、午前 11:15 と午後 11:15 にページします。

```
15 11,23 * * * cd /export/home/sheer/Main ; ./mc.csh localhost 8011 integrity.executeTest
partitioning > /dev/null 2>&1
```



- (注) cron テーブルの形式に関する詳細については、Solaris のドキュメントの「crontab(1)」を参照してください。

Cisco ANA 完全性サービス

Cisco ANA 完全性サービスは、データベースを維持し、システムのゴミをなくすため、完全性テストを実行してシステムを安定させる役割を果たします。これは、ゲートウェイまたはユニット上で実行される内部サービスです。

完全性サービス テストは、手動または自動で実行できます。

- 手動：完全性サービス テストは、Cisco ANA Shell マネジメント サービスの一部としてアクセスされ、Telnet でゲートウェイに接続して実行できます。

手動でテストする場合、Telnet でゲートウェイに接続し、integrity ディレクトリにナビゲートして **executeTest** を入力し、その後にテスト名を入力します。Cisco ANA Shell を使用してパラメータをテストに渡すことができます。

- 自動：**cronjob** コマンドを使用して、特定の完全性サービス テストをスケジューリングし、特定の間隔で実行できます。デフォルトでは、完全性サービス テストは 12 時間ごとに自動的に実行されます。

たとえば、crontab ファイルの次の行により、ファイル every_12_hours.cmd が 11:00 a.m と 11:00 p.m に実行されます。

```
0 11,23 * * * local/cron/every_12_hours.cmd > /dev/null 2>&1
```

この例では、完全性サービス テストは次のように every_12_hours.cmd ファイルに定義されています。

```
echo "`date '+%d/%m/%y %H:%M:%S -'` running integrity.executeTest alarm"
```

```
cd ~/Main ; ./mc.csh localhost 8011 integrity.executeTest alarm >& /dev/null
```

この例では、最初の行がゲートウェイ ログに書き込まれ、テストの開始時間を示しています。次の行でテストが実行されます。

完全性サービス テストのパラメータは、レジストリに定義されています。



(注)

レジストリの変更は必ず、シスコのサポートの下で行ってください。その他のユーザに権限を付与する場合は、ライセンス キーを取得し、それをインストールする必要があります。ライセンス キーを取得する場合、またはライセンス購入後にユーザを追加する場合は、シスコの代理店にお問い合わせください。

完全性サービス テストでは、次が実行されます。

- **Alarm** : アラーム カウント回数 (現在ゲートウェイにあるアラーム合計数) が定義したしきい値を上回る場合に、クリアされたアラームを削除します。
- **businessObject** : ビジネス オブジェクトにおける無効な OID を確認します。
- **Capacity** : ディスク スペース容量を確認します。
- **archiveLogs** : Oracle ログを削除します。
- **tablespace** : 表領域が大きくなった場合に十分なディスク スペースがあるかどうか検証します。
- **workflowEngine** : 設定期間前に開始されたワークフローをすべて完全に削除します。